

【第2チーム】FD合宿セミナープログラム及び記録

○プログラム抜粋

FD合宿セミナーに当たって

山形大学では、平成13年度よりこの合宿セミナーを実施し、教養教育の目標や授業の企画、シラバス作成を通して授業のスキル向上を実現するとともに、学部間の人的交流の拡大・充実を図ってまいりました。このような基盤のうえに、さらに「授業改善」に焦点化したアドバンスプログラムを実施することになりました。

このセミナーの第一の目的は、「個人個人の教員が教育者としての自己認識の深まりと学生の学びを大切にする授業、および授業改善の方法を具体的なケースを交えて考察・議論し、学生を中心とする教育・授業を発展させること」です。この目的を達成するために、本セミナーでは4つの参加型ワークショップを行います。これにより、参加者は学生が運営する学生主体型授業を体験することにもなります。

また、「ワークショップを共通の題材として、学部間の人的交流の拡大・充実を図ること」が第二の目的です。他部局の参加者と活発な議論を交わしながらプログラムを遂行し、セミナーが終了した後は、参加者が大学の教育分野全般の発展に、より一層積極的に貢献されることを期待しています。

このセミナーは、「構成員こそが大学の財産」という精神でのぞんでいます。

更に、このセミナーはFDネットワーク“つばさ”の参加校を始めとして、全国の大学等に開かれています。本セミナーが、相互研鑽の精神に則り、参加された大学・短大・高専の発展に寄与されんことを願っております。



第2チーム参加者と山形大学安田副学長

第16回 山形大学FD合宿セミナー日程表

期 間 第2チーム：9月5日（火）～7日（水）

○第1日目

時 刻	項 目	担 当	参照ページ
13:00	山形大学小白川キャンパス集合		
13:15	送迎バス大学出発		
14:00	会場到着・記念撮影 セミナー開会 開会のあいさつ		
14:30	オリエンテーション	小田	P. 6参照
14:40～15:10	アイスブレイキング	田実	
15:10～16:50	プログラムⅠ「授業に求められる合理的配慮とは？－ 障害者差別解消法と授業」	田実	P. 10参照
16:50～17:00	休憩（10分間）		
17:00～18:10	プログラムⅡ「学生の学修を支援する授業とは？－発 達障害等の配慮を必要とする学生が受講している授 業の工夫」	田実	P. 12参照
18:10～	夕食・懇親会		
20:30～	入浴・休憩		
22:30	就寝		

○第2日目

時 刻	項 目	担 当	参照ページ
7:30～	朝食・部屋の清掃・部屋退出		
8:30～10:00	プログラムⅢ「授業力の向上－わかりやすい授業を実 現するために－」	大島	P. 14参照
10:00～10:10	休憩（10分間）		
10:10～11:40	プログラムⅣ「研修のふりかえりとまとめ」	大島	P. 19参照
11:40～	修了式（ポストアンケート）		
12:15	送迎バス出発		
13:00頃	山形駅経由 大学到着・解散		

【留意事項】

- セミナー期間中の途中からの参加及び離脱は禁止とします。
- セミナー期間中の個人の呼称は、「〇〇さん」とします。
- 起床と同時に、寝具を使用前と同様に整理・整頓してください。
○寝室では、飲食はご遠慮ください。

平成28年度 FD合宿セミナー参加者一覧【第2チーム】

	機関名	氏名	専門分野	班(1日目)	班(2日目)	部屋割り
1	日本経済大学	戸田 宏治	進化経済学、法と経済学	D	B	2号棟2FB
2	新潟薬科大学	村瀬 博昭	経営学	D	B	2号棟2FA
3	常葉大学	関 真亮	東洋医学	B	C	2号棟1FB
4	三育学院大学	山本 理	生物学, 微生物学, 生化学, 保健統計演習	D	D	2号棟1FC
5	ものづくり大学	ビチャイ・サエチャウ	制御工学	A	D	3号棟1FC
6	ものづくり大学	佐々木 昌孝	建築史学, 木工家具	C	B	2号棟2FB
7	北陸大学	田中 康友	国際関係	B	B	2号棟2FA
8	北陸大学	東風 安生	道德教育	A	C	3号棟1FB
9	青森大学	宮川 愛子	高齢者福祉	D	A	4号棟1FA
10	前橋工科大学	臼井 敬太郎	西洋建築史(イタリア近代)、デザイン史	C	D	2号棟2FC
11	富山国際大学	小西 英行	マーケティング	A	C	3号棟1FA
12	八戸学院大学	田名部 麻野	在宅看護領域	B	D	4号棟1FB
13	八戸学院大学	綿谷 貴志	スポーツバイオメカニクス、生涯スポーツ論	A	A	2号棟1FA
14	神奈川工科大学	伊藤 勝久	教育学・人文地理学	B	C	3号棟1FA
15	長岡造形大学	長谷川 博紀	グラフィックデザイン・広告全般・イラストレーション	D	A	3号棟1FC
16	京都造形芸術大学	荒川 朱美	住宅デザイン・景観デザイン	C	A	4号棟1FC
17	新潟医療福祉大学	大石 如香	失語症、高次脳機能障害学、神経心理学	A	B	4号棟1FB
18	茨城大学	矢嶋 敬紘	障害者支援	B	A	2号棟1FB
19	東北芸術工科大学	柳川 郁生	体育学・スポーツ運動学	C	B	3号棟1FB
20	岐阜医療科学大学	古川 紀子	基礎看護学	B	D	4号棟1FC
21	山形大学	三枝 和彦	英文学	C	A	2号棟1FA
22	山形大学	橋爪 孝夫	教育学	A	D	2号棟1FC
23	山形大学	呉屋 淳子	教育人類学、比較教育学	D	C	4号棟1FA
24	北星学園大学	田実 潔		DR		3号棟2FA
25	東京工芸大学	大島 武		DR		3号棟2FB
26	山形大学	小田 隆治		DR		5号棟2FB

DR-A	田実 潔
DR-B	大島 武

1日目

A 班

所属	氏名	性別
ものづくり大学	ピチャイ・サエチャウ	男
北陸大学	東風 安生	男
富山国際大学	小西 英行	男
新潟医療福祉大学	大石 如香	女
山形大学	橋爪 孝夫	男
八戸学院大学	綿谷 貴志	男

B 班

所属	氏名	性別
岐阜医療科学大学	古川 紀子	女
神奈川工科大学	伊藤 勝久	男
八戸学院大学	田名部 麻野	女
北陸大学	田中 康友	男
常葉大学	関 真亮	男
茨城大学	矢嶋 敬敏	男

C 班

所属	氏名	性別
京都造形芸術大学	荒川 朱美	女
東北芸術工科大学	柳川 郁生	男
ものづくり大学	佐々木 昌孝	男
前橋工科大学	臼井 敬太郎	男
山形大学	三枝 和彦	男

D 班

所属	氏名	性別
長岡造形大学	長谷川 博紀	男
日本経済大学	戸田 宏治	男
三育学院大学	山本 理	男
青森大学	宮川 愛子	女
新潟薬科大学	村瀬 博昭	男
山形大学	呉屋 淳子	女

2日目

A 班

所属	氏名	性別
長岡造形大学	長谷川 博紀	男
京都造形芸術大学	荒川 朱美	女
青森大学	宮川 愛子	女
八戸学院大学	綿谷 貴志	男
茨城大学	矢嶋 敬敏	男
山形大学	三枝 和彦	男

B 班

所属	氏名	性別
東北芸術工科大学	柳川 郁生	男
日本経済大学	戸田 宏治	男
北陸大学	田中 康友	男
新潟医療福祉大学	大石 如香	女
新潟薬科大学	村瀬 博昭	男
ものづくり大学	佐々木 昌孝	男

C 班

所属	氏名	性別
神奈川工科大学	伊藤 勝久	男
北陸大学	東風 安生	男
富山国際大学	小西 英行	男
常葉大学	関 真亮	男
山形大学	呉屋 淳子	女

D 班

所属	氏名	性別
ものづくり大学	ピチャイ・サエチャウ	男
岐阜医療科学大学	古川 紀子	女
八戸学院大学	田名部 麻野	女
三育学院大学	山本 理	男
山形大学	橋爪 孝夫	男
前橋工科大学	臼井 敬太郎	男

オリエンテーション

1 FDの必要性

- ① 大学の組織的教育力の向上
- ② 大学教育を教員中心から学生中心へ移行することの教員の意識改革
- ③ 大学教員個々の教育力の向上
- ④ 大学生の質的变化への対応
- ⑤ 大学の社会的な教育責務の明確化

2 合宿セミナーの目的

- ① 教員個人が大学を支えることの位置付け。
- ② 学生一人ひとりの発達と同様に教員一人ひとりが同僚の力を得て発達することを改めて確認する。
- ③ 教授法について共に考え、スキルアップする。
- ④ 教員相互の交流。

3 セミナー形態

体験型のセミナーで、セミナー自体がグループ学習形式であり、参加者は、学生が運営する学生主体型授業を体験することになります。

- ① 参加者によるセミナー全体の運営
- ② セミナーのグループ構成：6班
「プログラムⅠ・Ⅱ」（1日目）と「プログラムⅢ・Ⅳ」（2日目）で、班構成を替えます。
- ③ プログラムによっては、全体での発表の際に記録をとるための記録係を置く場合があります。また、グループワークにおいて、各班に、司会者、記録係等を置く場合もあります。
- ④ 「③」で記録したものは、各プログラム終了後に提出していただきます（この記録は、こちらでコピーした後、速やかに全班に配付します）。
- ⑥ 最終日に合宿セミナーに関するポストアンケートを実施します。

* プログラムⅠ「授業に求められる合理的配慮とは？－障害者差別解消法と授業」では、最近増えている学生参加型授業についてこれない学生についてふれ、障害者差別解消法による授業での合理的配慮に基づく支援についてお話をします。その後、実際に発達障害とはどのような状態なのか、を体験して頂きます。

* プログラムⅡ「学生の学修を支援する授業とは？－発達障害等の配慮を必要とする学生が受講している授業の工夫」では、発達障害のある学生が出席している授業場面や実習での支援の実際や授業評価事例を交えながら、すぐに役立つ具体的な支援方法についてお話したいと思います。

* プログラムⅢ「授業力の向上－わかりやすい授業を実現するために－」は、授業スキルについての講義を聴いたうえで、「よりよい授業、わかりやすい授業」をテーマにディスカッションしていただきます。

* プログラムⅣ「研修のふりかえりとまとめ」は、プログラムⅢの討議結果の発表、及び全体のまとめを行います。

平成28年度 第16回山形大学FD合宿セミナー
「相互研鑽による大学教育の飛躍をめざして」

プログラムⅠ「授業に求められる合理的配慮とは？－障害者差別解消法と授業」では、最近増えている学生参加型授業についてこれない学生についてふれ、障害者差別解消法による授業での合理的配慮に基づく支援についてお話をします。その後、実際に発達障害とはどのような状態なのか、を体験して頂きます。

プログラムⅡ「学生の学修を支援する授業とは？－発達障害等の配慮を必要とする学生が受講している授業の工夫」では、発達障害のある学生が出席している授業場面や実習での支援の実際や授業評価事例を交えながら、すぐに役立つ具体的な支援方法についてお話したいと思います。

プログラムⅢでは、1日目のプログラムで検討した内容を実現するための基礎となる「授業力の向上」を目指して、講義＋ディスカッションを行います。

プログラムⅣでは、プログラムⅢのディスカッション結果を全体発表するほか、本研修全体のまとめを行います。自分のコミュニケーションスタイルは、この研修をとおして他のメンバーにどのように映ったのか、イメージ交換ゲームで体感してください。

プログラムⅠ 「授業に求められる合理的配慮とは？－障害者差別解消法と授業」

(タイムスケジュール)

- プログラムの講師による講義 80分
 - 発達障害を体験してみる 20分
- 全体で100分

プログラムⅡ 「学生の学修を支援する授業とは？－発達障害等の配慮を必要とする学生が受講している授業の工夫」

- 授業のヒントの説明 30分
 - 講義、ゼミ、実習、評価等々 25分
 - まとめと質疑応答 5分
- 全体で60分

プログラムⅢ 「授業力の向上－わかりやすい授業を実現するために－」

- プログラムの講師による内容の説明 5分
 - 「授業力向上のためには－ケーススタディー－」(講義) 55分
 - 「よりよい授業を目指して－ディスカッション－」 30分
- 全体で90分

プログラムⅣ「研修のふりかえりとまとめ」

- プログラムⅢの検討結果のプレゼン 5分×6班 30分
- イメージ交換ゲームの実施 30分
- イメージ交換ゲームのふりかえり 15分
- 研修全体のまとめー学びをFDに生かしていきましょうー 15分
全体で 90分

プログラムⅠ「授業に求められる合理的配慮とは？ー障害者差別解消法と授業」**ここでの課題**

プログラムⅠ「授業に求められる合理的配慮とは？ー障害者差別解消法と授業」最近増えている学生参加型授業についてこれない学生についてふれ、障害者差別解消法による授業での合理的配慮に基づく支援についてお話をします。その後、実際に発達障害とはどのような状態なのか、を体験して頂きます。

- プログラムの講師による講義 80分
- 発達障害を体験してみる 20分
- 全体で100分

プログラムⅡ「学生の学修を支援する授業とは？ー発達障害等の配慮を必要とする学生が受講している授業の工夫」**ここでの課題**

- 授業のヒントの説明 30分
- 講義、ゼミ、実習、評価等々 25分
- まとめと質疑応答 5分

プログラムⅡでは、発達障害のある学生が出席している授業場面や実習での支援の実際や授業評価事例を交えながら、すぐに役立つ具体的な支援方法についてお話したいと思います。

- まとめと質疑応答 5分
- 全体で60分

プログラムⅢ「授業力の向上ーわかりやすい授業を実現するためにー」**ここでの課題**

プログラムⅠ～Ⅱで検討した学生のモチベーション向上、授業への参画を実現するためには、まず教える教員自身に指導力・授業力が求められます。「わかりやすい」「興味の湧く」授業を実現するにはどうしたらいいのか。このセッションでは、授業スキルの向上という基本に立ち返り、講師の体験に基づく講義をベースにディスカッション形式で考えを深めます。

- プログラムの講師による内容の説明 5分
- 「授業力向上のためには ーケーススタディー」 55分
→次頁のレジюмеにそった講義
- 「よりよい授業を目指して ーディスカッションー」 30分
→講義内容を踏まえ、よりよい授業を実現するためのポイントを整理する。
→自分の持っている問題点の洗い出しと解決策の模索を行う。
全体で90分

【ケーススタディ ～私の授業法～】

1. ガイダンスのしかた

- 必ずワンペーパー作って渡す。 ← 最初の3週間で徹底

2. 授業の組み立て方

- 90分を3つのパートにわけると ← 話しの構造化
- 時間の使い方を予告し、守ると ← 全体像を見せることが大切
- 「つかみ」が大切（冒頭に力点） ← 終わりはすっきり

3. 効果的な表現技術

- 言語表現の工夫
 - ・「例示」の多用 ← 相手に合った例を挙げる
 - ・「つなぎ言葉」の活用 ← ゆっくり間を取って話す
 - ・「用語」の選択と位置付け ← 新出語に注意
- 非言語表現の効果
 - ・身体表現 ← gesture と posture の使い分け
 - ・対人距離 ← 机間巡視／指導はどこまで有効か
 - ・アイコンタクト ← プレッシャーと激励

4. 授業ツールの活用

【提示資料】・・・ 学生の注意を惹きつける

- 「聴かせる」と同時に「見せる」 ← 視覚効果は絶大
Cf. 日常生活における知覚機能別情報量
視覚83% 聴覚11% 嗅覚3.5% 味覚1.5% 触覚1%
(小林敬誌他著『プレゼンテーション技法・演習』より)
← やりすぎは逆効果
Cf. 木像よりは絵像、絵像よりは名号といふなり (蓮如)
- 板書は最高のビジュアル ← 小学校時代からのお約束

【配付資料】… 学生の手元に残す

- レジユメの効果 ← 情報を与えすぎない
- 教科書の使い方 ← 買わせたら使う

5. 双方向性の確保

- 発問のしかた ← 大切なのはリズム
- 紙ベースでのやりとり ← e x) 巨大出席カード
大手前短大「なるほどポイント」

6. 評価のしかた

- 「合わせ技」が基本 ← 内訳をシラバスに明記
e x) 参加 10% 小テスト 40% 発表 20% 提出物 30%
- 個人情報保護と説明責任 ← 授業期間と終了後で区別

7. まとめ

- アリストテレスの話し方3要件 ← ログス・パトス・エートス

プログラムIV「研修のふりかえりとまとめ」

ここでの課題

プログラムⅢで議論、検討したより良い授業を実現するためのポイントについて、各グループに発表していただき、全体での分かち合いを行います。また、2日間の研修を通じて、自分のコミュニケーションスタイルが他人にどんな印象を与えたのか、イメージ交換ゲームを通じてふりかえります。

- プログラムIVの検討結果のプレゼン 5分×6班 30分
- イメージ交換ゲームの実施 30分
- イメージ交換ゲームのふりかえり 15分
- 研修全体のまとめ –学びをFDに生かしていきましょう– 20分
全体で90分

プログラムⅠ記録「授業に求められる合理的配慮とは？－障害者差別解消法と授業」
プログラムⅡ記録「学生の学修を支援する授業とは？－発達障害等の配慮を必要とする学生が受講している授業の工夫」



プログラムⅢ記録 「授業力の向上—わかりやすい授業を実現するために—」
プログラムⅣ記録 「研修のふりかえりとまとめ」



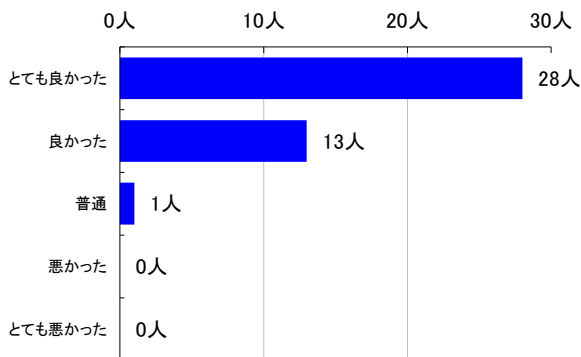
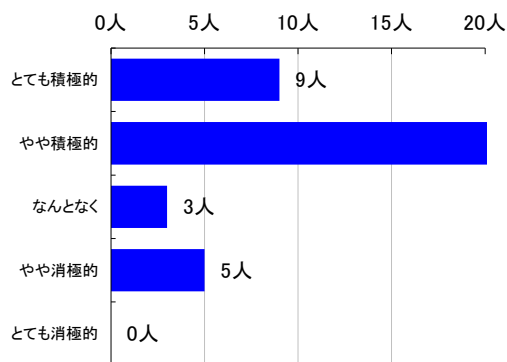
FD合宿セミナーポストアンケート集計結果

1 このセミナーには積極的に参加しましたか。 2 このセミナーに参加して良かったと思いますか。

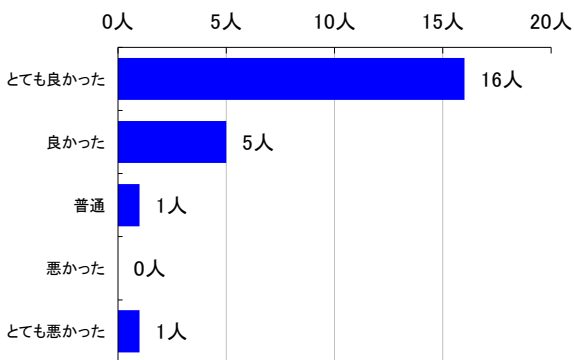
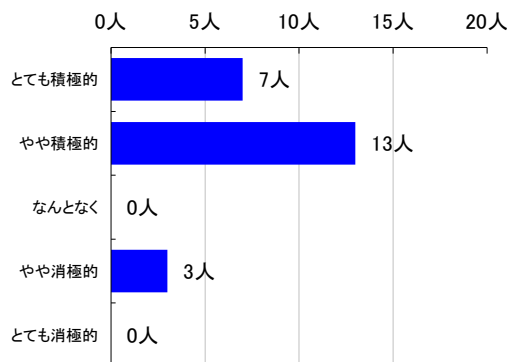
〈セミナー参加前〉

〈セミナー修了後〉

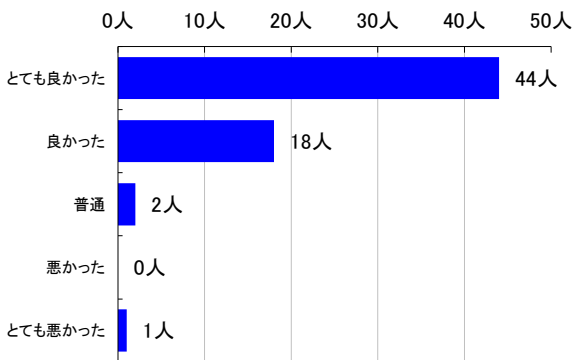
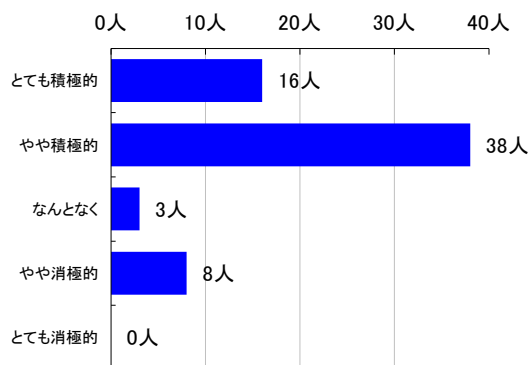
○第1チーム



○第2チーム

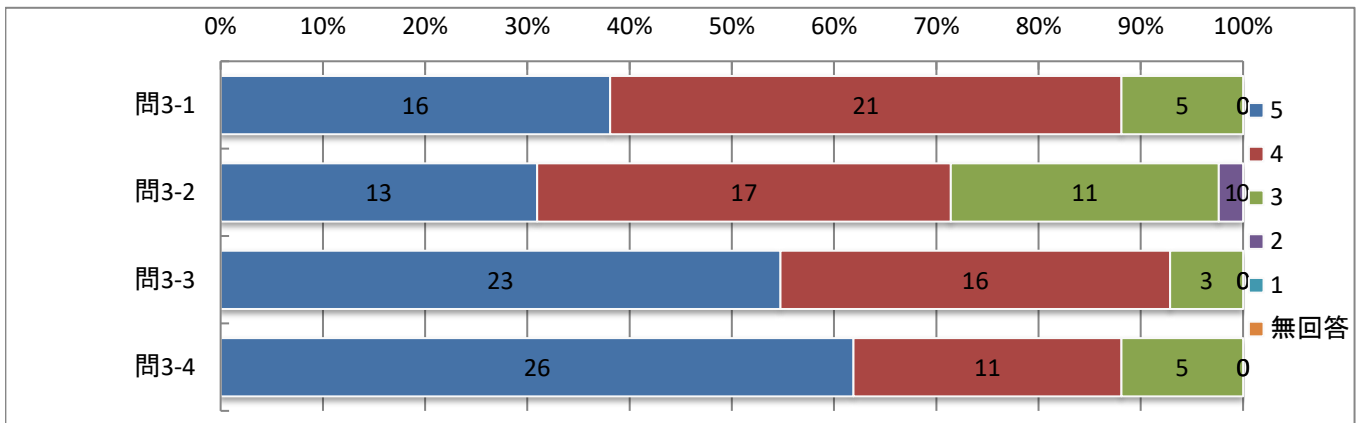


○全体

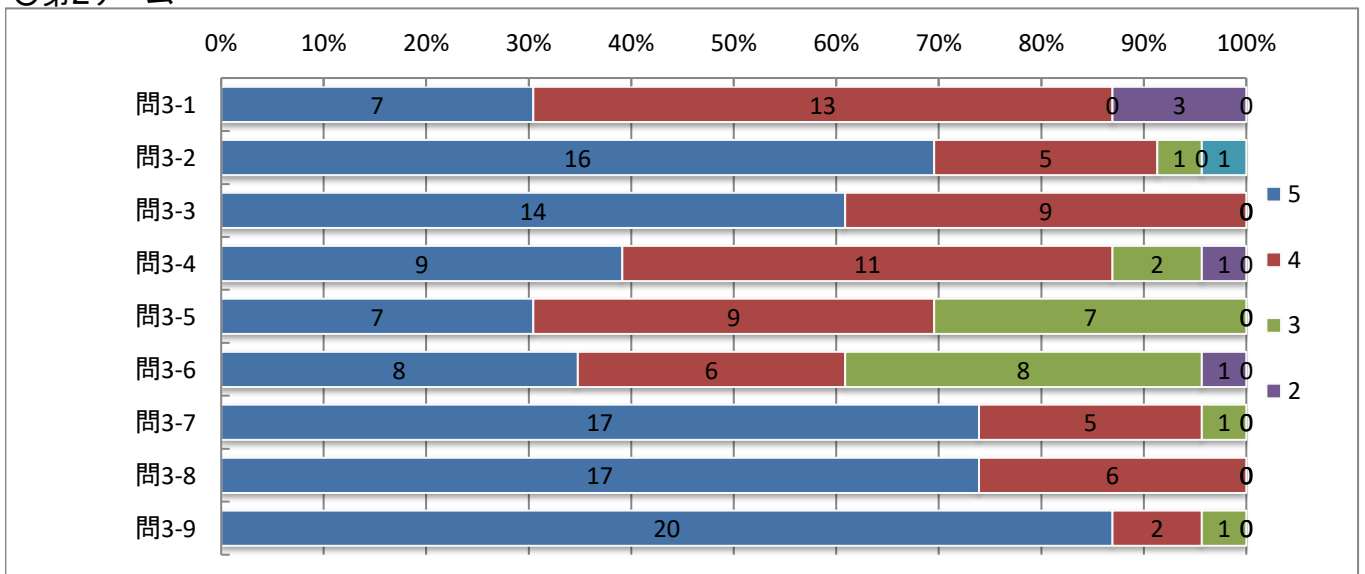


3 今回のセミナーにおける次の項目について、個人的な収穫度(意欲、理解、応用など)を5段階で評価してください。(5:良い・・・1:悪い)

○第1チーム

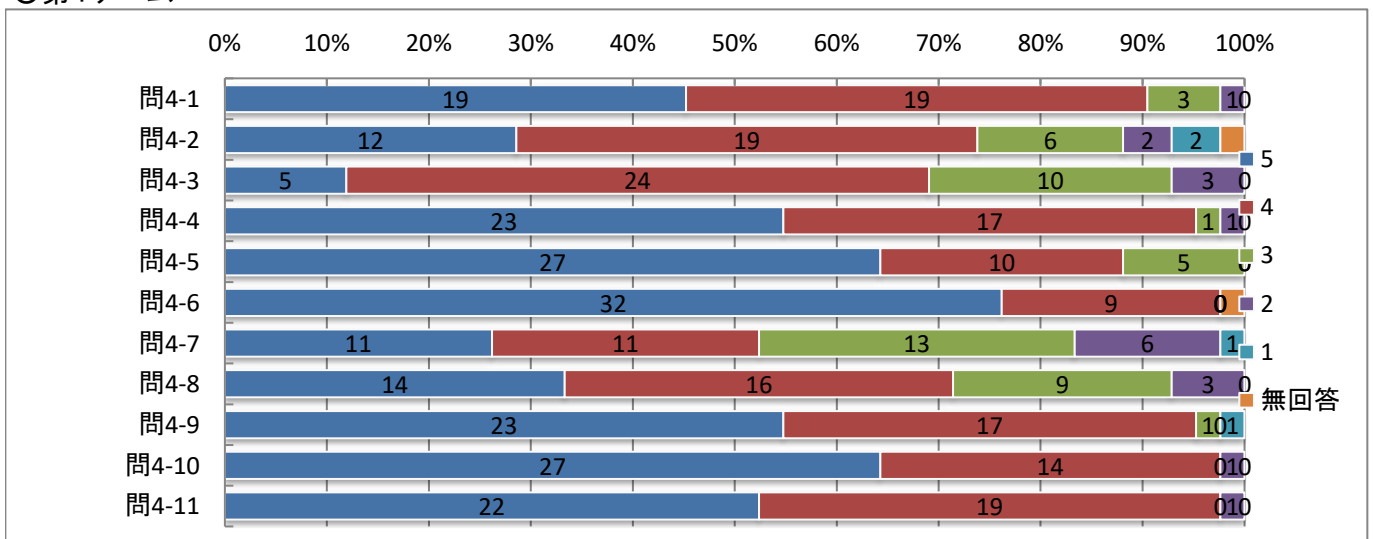


○第2チーム

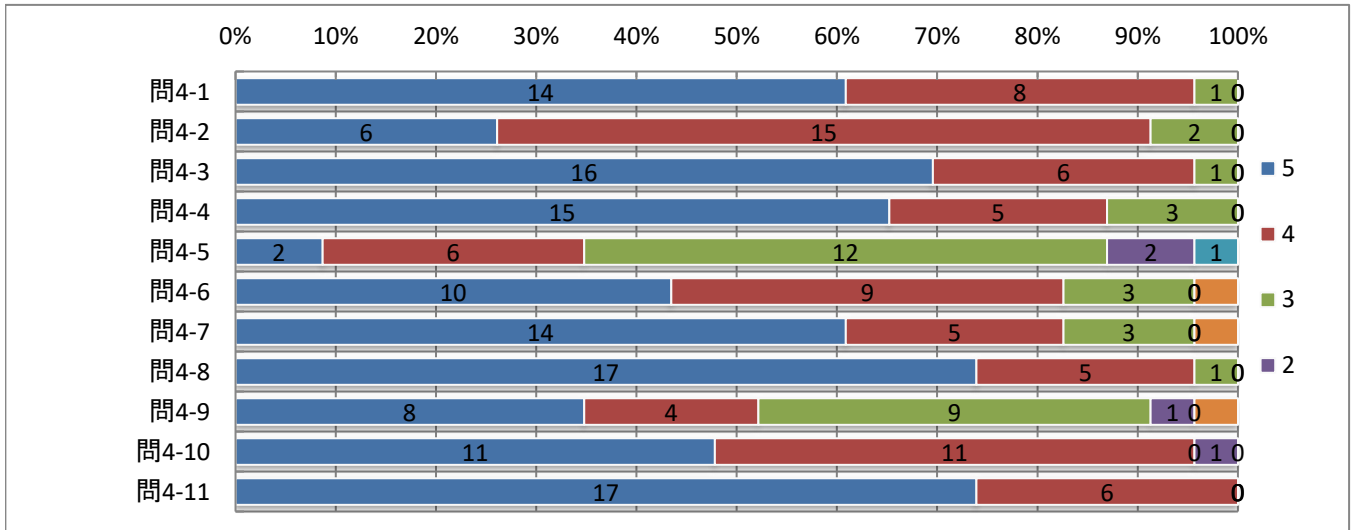


4 今回のセミナーを5段階で評価してください。(5:良い・・・1:悪い)

○第1チーム



○第2チーム



○自由記述

(1)第1チームの回答

① このセミナーにおいて、良かったと思う点

- ・相互の交流があること。学び合い、教え合い。
- ・他大学との交流。
- ・いま一度ふりかえりシラバス、講義を考えることができた。実践していることがある部分では「正しい」と判断できたと共に、改善、修正のポイントを学ぶことができた。
- ・教員となり1年目であり、アクティブラーニングの方法及びシラバスの作成等の指針となるものがなく、今回の経験を今後の活動に生かしたいと考える。
- ・アクティブラーニングについてじっくりと学びました。他分野の方とお話しができたことが楽しかったです。
- ・授業を行ってみることで、今後注意をすべきことを考えられた。
- ・アクティブラーニングについて理解を深めることができ、参加者との協同作業を通じて体験することができた。
- ・他大学や、分野の違う人々と交流を持ち、模擬授業を作り上げることができた。
- ・NG、OKの場面を設定したことで、注意すべき点に気づきやすく発表が盛り上がった。
- ・7名のメンバー一人一人が協力して、ワークを行うことができた点。納得いくまで議論ができた点。
- ・色々な分野(研究分野だけではなく、授業を主にしている先生、研究室を主にされている先生→それぞれの立場や状況が異なるので)の先生の話しが聞けて良かったと思います。
- ・学部や領域の異なる先生方と取り組む中から視野の広がりを感ずることができました。
- ・グループ学習の成果をただ発表するだけでなく、演劇形式でアウトプットできた点。
- ・多様な研究分野の先生方とディスカッションできた事。相互理解し(それぞれの主張を)、協働してシラバスを作ったこと。
- ・アクティブラーニングを十分理解できた。
- ・アクティブラーニング、フィールドワークをどのように利用、展開していけば学生にとって効果的なのか、具体的にわかったと思う。
- ・自分の知識不足がよくわかりました。
- ・具体的に仮想的な授業を計画する作業が含まれること、他グループの取り組みも見ている情報を収集できること。
- ・アクティブラーニングを実践を通して、あるいは他者の話を伺って学べた点が良かった。
- ・参加者全員が体験できるワーク構成になっていて、システムを体得できた。
- ・アクティブラーニングを、アクティブラーニングによって学べた点。アクティブラーニングやシラバス作成のツボを、他の参加者から聞き、学べた点。
- ・相互協力をしながら、プロダクトを伴っていく難しさを学べ

ました。

- ・様々な方と知り合えた。アクティブラーニングを体験できた。
- ・初年時教育に生かせる内容、アイデアを沢山いただいた。ディスカッションの型と(人数、タイミング、etc)、進め方について新しく学んだ部分があった。シラバス作成・授業プレゼンに十分な時間がなかった、とも思ったが、結果的には締切効果があつて良かった。他分野の先生方の視点が得られたのが嬉しい。
- ・最後の模擬授業では、大学などの教員の学生観察がどのようなものかわかった気がします。シラバスづくりから模擬授業まで一貫して行われている。
- ・大学の授業におけるアクティブラーニング(AL)の在り方について、異なる大学・分野の方々と議論しながら具体例を作り上げることができ、大変参考になった。今後の授業に活かしていきたい。
- ・グループ学習に対して創造性を発揮して構築して行けてすばらしさがあり、感動がありました。
- ・頭で分かっている事でも実現が難しいこと(形にする事の難しさ)を、グループメンバー同士で話し合うこと、他グループのプレゼン等を通して、実践していく道が見えました。特にALで重要と思つて居るグループワークでのコミュニケーションのさせ方、指示出しの具体例等は参考になりました。
- ・学外の方と協働し、1つの授業まで作りあげられた点です。学生達に「協働しろ」と言っていることを実際に経験し、その大切さを後期は授業で伝えられるし伝えたいと考えています。
- ・初めて聞く名前の大学・色々な大学に色々考え工夫している教員が沢山いることがわかったこと。アクティブラーニングのノウハウを学べた。
- ・学生教育を変えたいという志の下、同じ目的に向かって全体で取り組めたことがとても有意義であつた。様々な専門性の者が集まり、いろいろな角度から意見を出すことができたのは新鮮だった。
- ・学部横断的なメンバーだったので、様々な意見が聞け、基本的な考え方を勉強することができた。
- ・シラバスと実際の授業の関係を意識し直すことが出来ました。
- ・アクティブラーニングについて、その意義や方法を体系的に見直すきっかけとなった。シラバスの書き方など、自己流であつたものを客観的に、また、学生の目線を取り入れながら学ぶことができた。
- ・自分の専門とは違う他大学の先生と話す機会がなかなかないので、その機会を持って良かった。地域との連携というテーマは自分の普段の授業ではなかなか触れる事がないテーマなので最初戸惑つたが、色々違った角度の意見が出てきたため、シラバスを作り上げることができた。
- ・他分野の先生方と一つの課題に取り組むため、自分が日頃当然と思つていたことがそうではないことに気付かされた。これは学生に対してもそうであり、今後自分の考えを絶対と思わず、人間的にも学生の価値判断を理解する大切さを学ぶきっかけとなった。

・いろいろな先生方の意見にふれることができた。

② このセミナーにおいて、良くなかったと思う点(改善すべき点)

- ・次に行うプログラムやワーク、成果物の説明が少なく、たまに「何をしていいか、わからない」という時があった。
 - ・時間管理がルーズ。早く開始するときのアナウンスがなく、遅れて(むしろスケジュール通りにその人達は動いていたが・・・)入ってきてしまう人たちがいた。
 - ・食後チームで自由に議論できる場所や時間。
 - ・1回で終了可能なアクティブラーニングの方法も知りたかった。
 - ・もっと積極的になればと思うことがあった。
 - ・他の参加者との議論において、議題の方向性が定まらず、最後までまとまりがなかった。
 - ・考える時間が短かった。
 - ・名簿の情報(教歴や着任に関する情報があるといい)。しめいにふりがながあると良いです。
 - ・時間(プログラム)通りに進めていただきたいと思いました。時間配分も授業には必ず必要であるため。
 - ・時間的にやや、大変・・・と思う点はありました。(一日目、主題決めとシラバス作成～模擬授業の構成～二日目、実際の模擬授業)。
 - ・シラバスの白紙(書き込み用)や、ディスプレイなどPCで作成するシラバスを共有出来る(共有しやすく)ようにして欲しい。
 - ・当初の予定と少し異なっていた。
 - ・I日目にシラバスが仕上がるような時間配分が欲しいです。
 - ・セミナー全体が終わった後、何かしら講師に質問する機会があると助かる、セミナー中にいろいろな疑問が生じるため。宿舎は夜とても暑かった。
 - ・予算によると思うが、宿泊所の相部屋は近年のLBGT配慮に欠けるのでは?朝食は同時に開始する必要性ないと思います。
 - ・セミナー時間内外問わず、他にきかねなくグループワークに利用出来るスペースがあると良かった。
 - ・シラバスを伴ったことのない方は、予習も必要な・・・と感じました。
- 作業時間を長くする。テーマを具体的にする(具体的すぎてもやりづらいですが)。
- ・スケジュールが過密だった。
 - ・2日間はあっという間に終わってしまいます。
 - ・懇親会でもう少し交流が進むとよかった(例えば、大学後との自己紹介など)
 - ・時間配分に関してもう少し欲しいと思いました。
 - ・風呂の時間が長く取れると良かったです。
 - ・特にございません。あえて申し上げるならばワークの時間がもう少しあると良かった。
 - ・時間配分、もう少し時間が欲しかった。
 - ・パソコンでシラバスやテーマを考える際に、パソコンの内容を班員で共有できないので1台モニターがあればより良

いと思った。

- ・時間がタイトだったので、もう少しディスカッションしたかった。
- ・せっかくなので、もっと時間をかけてみたいと感じました。
- ・アクティブラーニングを模擬授業という形式で行う際、良い点・悪い点を意識的に盛り込むため、勉強にはなるのだが、この目的を事前に丁寧にレクチャーし意義を理解させるべきだと思う。というのも、演技や内容のウケを重視して、つまらない三文芝居を見せられるのは苦痛でしかない。
- ・発表の時、講師役だったが、臨機応変にアドリブをきかせられなかったのが残念だった。対応できるように、これから日々授業に取り組みたい。
- ・食事や移転の時間がやや短いかと思います。それくらいしか改善点はないです。
- ・アクティブラーニングについて、自分の授業に取り入れられそうな工夫をたくさん学ぶことができた。

③ このセミナーに参加して、これからの自分の授業並びに教育活動をどのように展開していこうと考えていますか。

- ・単にALを行うのではなく、授業設計に組み込むことが大切。(シラバスや90分の構成)
- ・セミナーのアクティブラーニングの意義は、自身の教育の中で例えば学年や卒業を越えて、長期的なスパンで効果を見ることになると考えます。
- ・内容をそのまま授業に用いることは難しそうだが、エッセンスは、すぐにでも取り入れたい。
- ・分担分しかないが、90分で展開していけるような構成に組み直してやってみたいと思います。
- ・アクティブラーニングを常に意識していきたいと思う。考え方や気持ちをアクティブにできること、できるにはどうするかをもっと考えたい。
- ・アクティブラーニングの好ましい点、欠点双方について理解を深めることができたので、自分自身の授業に適切に取り入れていきたい。
- ・学生との対話型の授業および教育について、自分の専門に生かしていこうと思う。
- ・これまでのアクティブラーニングを導入した授業について、何をどのように改善するかを考えてみたい。
- ・まずは様々な学生、様々な教員がいることを受け入れ、臨機応変に対応する。
- ・一方的な講義でなく、学生自らも動きながら考えられ、身につく活動にしていきたいです。
- ・基本的なことですが、学生に対する理解(名前・学部)をできるだけ取り組み接すること。シラバスの活用や達成感の味わせ方。
- ・自分の大学に持って帰って、作ったシラバスを展開したい。問いかけの方法を工夫したい。
- ・大教室の授業では、なかなか難しいと思いますが、少人数(20~40名)では是非実施したい。
- ・演習型の授業において、もっと学生に考えさせる時間を確保したり、興味をもってもらえるような話題提供をしたいと考えます。

検討したいが、授業内容、受講者数などいろいろ制約があり試行錯誤が必要かと思う。

- ・学生に対する気付き(スイッチ)を実行する為の方法として積極的に取り入れていきたいし、学内の他教員にも伝えることで大学全体の教育活動に反映できる様に取り組んでいきたいと思います。
- ・基礎教養だけでなく、大学院教育、専門教育にも取り入れ、専門性をフルに活動したアクティブ・ラーニングのあり方も興味深い。ただし新しいアイデアのIPをどのように守るか、問題も出てきそう。
- ・当校では各科目についてアバウトな教育計画しか作ってないので、授業効果の程度は教員の個人的スキルに寄るところが多い。シラバスの作成は、体系的、システマチックな授業運営につながると考えられた。学生に考えさせるしかけのヒントにしていきたい。
- ・各班の模擬授業で表現されたポイント、質疑応答、授業運営や学生のやりとりを自分の教育活動にも取り入れていこうと思います。
- ・学生の考えるきっかけを増やしていきたい。
- ・これまで自己流の手法や考え方だったモノが、系統だったものが導入出来そうです。
- ・学生の思考が深まり、課題に対して協働的に取り組むことで、「共創」できる人材を育成していきたいと考えている。
- ・専門教科に対して、学生に対して主体的に学ばせる様にするには、難しいと思いますが工夫していきたいです。
- ・出来るところからやること、そして失敗してもくじけず何度も繰り返し改善に導きたいと思います。
- ・後期の授業に学生視点(実働)と教員視点(客観性)を持つ意義をするきっかけとなりました。
- ・少人数で自由が効く授業からアクティブラーニングを取り入れてみたい。
- ・アクティブラーニングを出来れば取り入れたい。
- ・これまでは課題を与えたSGDが多かったので、もう少し学生が考えると言うことを大事にした授業を考えたい。
- ・学生の主体性を引き出すアイデアを考える機会ともなったので、これを授業で実践してみたいです。
- ・基本的に講義形式の授業を担当しているのですが、アクティブラーニングないしは双方向性をどうにか取り入れてみたい。
- ・アクティブラーニングを通して学生が変わるような授業にもっと積極的に取り組んでいきたい。そのために今回学んだ講師が準備することやすべきことを行っていききたい。
- ・「シラバスのビジュアル化」は、法律学を初めて学ぶ学生にとって大変重要であり、今後自分が何を学習するのかどのように学ぶのかを知ってもらい、学習意欲の向上につなげたい。
- ・少しの時間でも工夫することで効果的にアクティブラーニングを取り入れたいと思う。

④ 自由に感想を書いてください。

- ・ありがとうございました！！
- ・なぜ山形大学で山形の場所で実施されているか等の根本的な意味があればより良いと思います。
- ・刺激的なセミナーでした。自身の教育方法を確認省みる良い機会となりました。山形大学の教職員の方々、参加された各大学の先生方に感謝申し上げます。
- ・とても、いろいろな先生方の考え方、工夫をすることができてよかった。
- ・よく練られたプログラム、とても面白かったです。ありがとうございました。
- ・様々な地域、専門、異年齢の方々の考えに触れることができて、とても良い機会となりました。アイスブレイクも面白かったです。やってみようと思います。
- ・小田先生のカリスマ性を感じました。エネルギーをいただきました。
- ・流れや難易度など調整されており、以前よりも一段とブラッシュアップされている印象がありました。まさにFDとしてこの研修も改善を繰り返していることを肌で感じました。参加させていただきありがとうございました。
- ・機会があればまた参加したい。
- ・大変有意義なセミナーに参加させていただきましてありがとうございました。今後の授業に活かしていきたいと思えます。
- ・教員になって間もない事もあり、チンプンカンプンといった所から入ってきましたが、終了時にはシラバスの組立方がなんとなくわかった気がします。もう少し時間をおいて再度同様のセミナーに参加したいです。
- ・授業設計を改めて考えるいい勉強になりました。
- ・セミナー中に用いられた資料等が、後日インターネット等で拝見できるとありがたい。
- ・貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。
- ・総じて、良い体験学習となりました。若手教員だけでなくシニア教員の意見も重要で、年齢の片寄りがないように参加者のダイバーシティーを確保した方が良い。
- ・つや姫おいしかったです。グリーンフィールドの名前の由来がわからなかったです。
- ・基礎の科目では、限られた時間の中で多くの知識を伝達しないといけませんが、それをどのようにアクティブラーニングで行うのかが、自分の課題としている。
- ・自分が考えていたよりアクティブラーニングは深いことに気づかされました。
- ・直前に風邪をひき、参加するかどうか迷ったのですが、思い切って参加して良かったです。大変楽しく学ぶことができました。
- ・第1チーム、第2チームともに参加ですが、すでに燃え尽きました(笑)研修内容タフです。
- ・2日間大変お世話になりました。山形に来て合宿に参加できて勉強になりました。
- ・素晴らしい企画だと思います。物理の講義で、ここでやっているような定型的なやり方がなじむかは疑問ですが、新しいやり方もあるのではないかなと思うようになりました。

- ・セミナーの存在をあまり知らずに参加することになったが同業種にもセミナー参加の良さを伝えたい。
- ・スムーズなディスカッションやセミナーを計画していただいた。スタッフの皆様に感謝いたします。
- ・全く異なる分野の方々と教育について考える貴重な機会になりました。
- ・2日間ありがとうございました。
- ・法律系は体系が明確でほとんどいじりようがないと思っていましたが、今回の合宿でこの固定概念が崩れました。学生の意欲につながるシラバス、アクティブラーニングの実現を目指します。

(2) 第2チームの回答**① このセミナーにおいて、良かったと思う点**

- ・授業改善する点が多かったこと。
- ・1日目、2日目ともに私が職業人として、そして生活者として悩み考えているテーマでしたので大変有意義でした。
- ・これからの課題である涉外学生の受け入れについて研修できた。
- ・テーマの設定と時間配分。
- ・実用的な具体例なども多く紹介して頂き、自分の授業改善に役立つと感じた。
- ・プログラムの内容が良かったと思います。具体例が多く盛り込まれており、理解しやすかったです。
- ・大学として合理的配慮をどのように行っていくか、理解することができわかりやすかった。大島先生のセミナーは後期からの授業にすぐに活かせる内容が盛りだくさんで大変有意義であった。
- ・様々な分野に方々にお会い出来たこと。知らなかった専門的なお話を聞いたこと。
- ・他大学の先生との交流は大変有益でした。現状自分が抱えている課題について、他の先生はどのように対応されているのか、解決の方向性を見出すことが出来ました。
- ・積極的な先生方の集まりでの交流がとても良かった。
- ・多様な教員と知り合えたこと。あらたな知識を得られたこと(特に障害関連)、テクニカルな部分(授業の)、夜の懇親会。
- ・新しい学びが盛りだくさんでした。参加しないと得られない貴重な経験になりました。
- ・発達障害を持った学生への対応が必要となっている状況を良く把握できた。
- ・今後の授業の改善に役立つと思います。大変参考になりました。
- ・発達障害のある学生が実際に講義の中でどのようなことで困っているのかを知ることができて良かったです。具体的な対応について考えることができました。
- ・学習障害という、今、(そして今後ますます)取り組むべき問題に関する充実した内容のお話を聴くことができた点。授業改善のための、様々な意見を聴くことができた。授業を組み立てる際に注意すべき点、あらたな視点が得られた。
- ・発達障害の学生のいる授業運営について、具体的なアドバイスをたくさんいただきました。
- ・授業メソッドの理解、授業体験、先生方との交流。
- ・似通ったテーマに取り組み続けられている先生方が多くいらっしやることに刺激を受けた。教育について十分なメソッドを学んでいなかったため、シンプルなものから実践できたらと思いました。
- ・講師のみなさまのお話の内容、熱意、ともに刺激を受けた点、参加された先生方との交流ができた点。他学の先生から様々なアイデアをいただいた点。
- ・向上心の高い各参加者と講義の時間のみならず、その他

のの時間でもふれあえる機会を得られたことがよかったです。

- ・どのプログラムも非常に参考になり、また是非自分の授業に取り入れたいと思う内容ばかりでした。特に今年から施行された「障害者差別解消法」との関係性やそれを踏まえた対応がとても勉強になりました。
- ・様々な先生方と交流が持てたこと。1日目と2日目でグループ編成が変わったことでより多くの方と交流がもてた。

② このセミナーにおいて、良くなかったと思う点(改善すべき点)

- ・第2グループになると、いきなり年齢層が上がるのはなぜ?
- ・特にありませんが、また同じメンバー等で続きが出来るような仕組みがあればと思います。SNSなど!!
- ・1日目の内容が発達障害が中心の内容であったが、もう少し授業マネジメントに関する内容の方が良かったと思う。
- ・相部屋は、交流がもてた点で良い面もあったが、個人的には個室の方が良かったような…。懇親会は座敷でもっと色々な先生とお話したかったが、席の移動がしにくかった。
- ・特に思い当たりません。
- ・集合場所。山形駅に着いてから大学まで移動、帰りも駅を越えて大学まで、そのくらいです。中身については素晴らしかったです。
- ・もっと交流を深める時間があっても良いのかなというくらいです。良い先生たちとの出会いをもっと深めたかったということです。
- ・1日目はレクチャーが多く、アイスブレイクしたのにあまりワークがなかった。
- ・2日目は、班内での交流があったが、1日目にはその時間がなかったのが残念でした。多くの方々とお交わる必要から、このようになったかとは思いますが。
- ・Web環境が無い。
- ・事例をもっと紹介してほしいところです。
- ・セミナー中の飲み物を増やしていただきたい(水分補給)。
- ・第二チームは人数が少なかったため、アットホームで良かったと思いますが、懇親会で全員の自己紹介があってもよかったですのでは…。
- ・最後のまとめとして、参加された先生、スタッフ全員のコメントを開けたらと思いました(初日の宴でも良いかもしれませんが)。
- ・議論する時間がやや不足みだったと感じた。
- ・参加型、体験型の講義がもう少し増えるとよかったです。

③このセミナーに参加して、これからの自分の授業並びに教育活動をどのように展開していこうと考えていますか。

- ・大学間で知識の共有ができるようにしたいと思います。
- ・学生のニーズ、親のニーズ、大学の
- ・自分が出来ることと出来ないことをしっかりと見極めて、どんどん導入していきたいと思っています!!

- ・プレゼンテーションを工夫して学生のモチベーションを上げる方法を活用したい。
- ・話し方、プレゼンの方法、障害をもつ学生への接し方。
- ・大学に帰り、早速 FD 委員に伝達講習し、大学としての取り組みに生かしたいと思います。“授業はプレゼンテーション”というのは目からウロコでした。早速、後期からの授業の見なおし(授業の組立て、配付資料等)を行います。
- ・これが正しいやり方だ！と決めつける事なく、常に自分の授業等を見つめてゆくこと、見つめることを怠らないことを心がけたい。
- ・アクティブラーニングを推進しているので、より効果的な方法を実践していただきたいです。障害者対応についても実践できることが多くありました。
- ・まずは個人的な工夫として活用しながら所属全体への共有としていきたいと思います。
- ・障害者に関しては、全学的に伝えられるように FD で発表したい。授業では最近アイコンタクトができず、授業も数年前の学生向けだったのでアップデートしてやっていきたい。
- ・発達障害のある学生への対応について、具体的に学ぶ機会が与えられたのはとても良かった。「困難な事案」への対応が主であり、障害・障害者が主ではないということを肝に命じておきます。
- ・学生に対しわかりやすい授業を心がけたい。
- ・情報の共有に活動して展開していきたいと思います。
- ・授業力の向上に役立つアイデアをたくさんいただきました。わかりやすい授業にいかしていきたいと思います。
- ・今回学んだことを後期からの授業に早速取り入れていきたい。
- ・自分の授業がもちろんですが、大学全体で共有させていただきたいと思います。
- ・発達障害の学生だけでなく、一般の学生にとってもメリハリの効いた授業の重要性を再認識しました。
- ・終わりのないテーマですし取り組みなので、2 日間のことを思い出し日々努力していきたいと思います。
- ・プログラムⅢ「よりよい授業をめざしてーディスカッションー」での各グループの提案をふりかえって実践していきたいと考えている。
- ・工夫は多岐に渡り、また細かいものも多かった。この細かい部分を積み上げていくことが大事と感じたため。手を抜かず、教育活動を改善しつづけたい。
- ・発達障害の有無に限らず、一般の学生や留学生にも活用できると考えているので、是非実践したいと思います。
- ・発達障害のある学生に対する対応、配慮、できることは何かを考えていきたい。学生に伝わりやすい授業の工夫。

③ 自由に感想を書いてください。

- ・ぜひ田実先生には本学スタッフにも学ばせたい。本学での SD 研修の講師に来てほしい。
- ・次年度、テーマ、講師が同じであっても、おそらく得られる内容は異なると思います。可能ならば次年度も参考にしたいです。
- ・とても有意義であった。しかし、宿泊場所に関してはネット

- ワーク環境のあるホテル等の方が良かったのでは。また 2 人同室なのも改善して欲しい。
- ・2 日間お世話になりました。他学部の先生方と話す機会ができて貴重な経験となりました。
- ・大変、有意義な FD セミナーでした。ありがとうございました。
- ・勤務先の教職員に今回のセミナーの話しを是非伝えたいと思います。
- ・多くの先生方と知り合えて大変良かったです。
- ・ありがとうございました。また機会があれば参加したいです。
- ・可能なかぎり、2 泊 3 日での参加が望ましいのではと思います。
- ・他大学の先生方と率直に話し合えることが有り難い。
- ・有益なセミナーでした。
- ・大変充実した内容でした。ありがとうございました。
- ・大変お世話になりました。どうもありがとうございました。
- ・裏方の皆様もお疲れ様でした。大学に持ち帰って育てられる種をいただきました。ありがとうございました。
- ・非常に有意義なセミナーでした。とても清々しい気持ちで帰途につけます。
- ・各講師の先生方、運営の皆様のあたたかい雰囲気や嬉しい気持ちになることの多いセミナーでした。ありがとうございました。
- ・2 日間お世話になりました！こんなに充実していて「参加して良かった」と思える研修は初めてでした。本学には支援センター的な部署がまだないので、その設置に向けても働きかけることができれば・・・と考えております。本当にありがとうございました。
- ・発達障害に関する知識はほとんどない状態で参加させていただきましたが、とても充実した時間になりました。